

BSL-4施設で実施された研究の成果報告：

SFTSウイルスを感染させた サルに対する抗血清の効果

ウイルス第一部

西條政幸，下島昌幸

実験の経過等

- 目的
 - 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に対する抗体*製剤（治療薬候補製剤）の治療効果をサルモデルにおいて評価する。
- 研究実施期間
 - 2016年5月から9月
- 経過
 - SFTSウイルスはレベル3ウイルスであるが、退出時にはシャワーを浴びるなど、すべてBSL4施設としての規則に則って実施した。

（*抗体：ウイルスの感染に対して体が反応して作る物質であり、ウイルスを殺す機能がある。）

成績と意義

- 成績

- 感染したサルに抗体製剤を与えることにより、SFTSを治療することが出来た.

- 意義

- 以上から、抗体製剤がヒトにおいてもSFTSに対する治療薬となる可能性が示された. 今後、ヒトに使用可能なSFTS治療薬を、抗体製剤として開発するにあたって、非常に貴重な結果である.